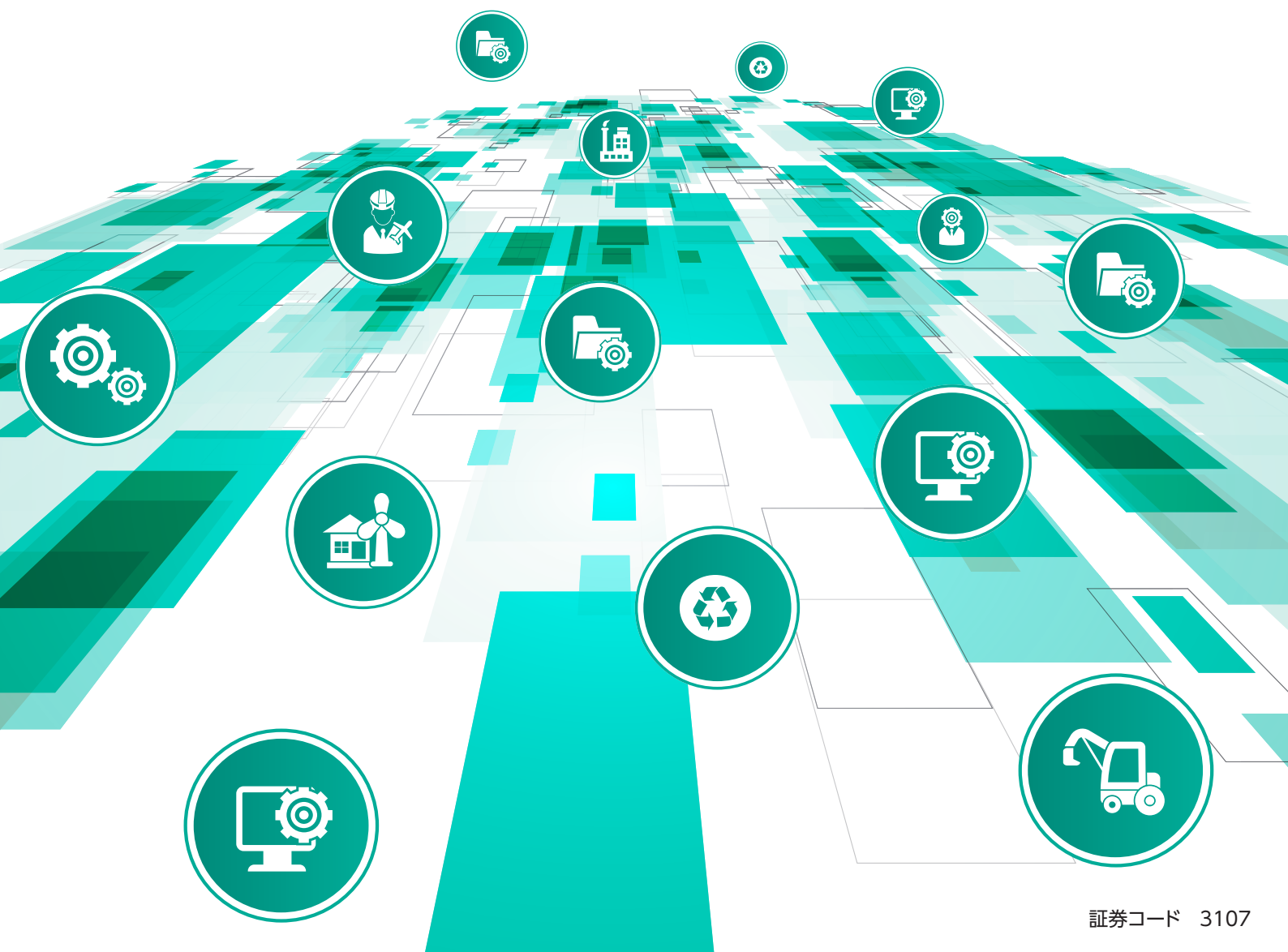


2023年4月1日～2024年3月31日

バリューチェーンで
人をつなぐ、社会をつなぐ、未来へつなぐ





第113期のご報告

ITインフラ流通事業で IT投資需要を獲得し、 売上高・営業利益ともに 着実に成長を遂げました。

ダイワハウジング株式会社
代表取締役社長

西村 幸浩

業績について

当社グループは、従前からの重点検討事項のひとつであった事業ポートフォリオの在り方について、当社および大和紡績株式会社の企業価値最大化に向けた戦略的選択肢として、祖業である繊維事業についてグループからの独立化を決定し、2024年3月に大和紡績株式会社の発行済株式の85.0%を、株式会社アスパラントグループSPC11号に譲渡いたしました。これにより、繊維事業は、2024年3月期をもって当社グループの連結の範囲から除外されることになりました。

当期の連結業績は、売上高9,677億6千万円(前年同期比7.1%増)、営業利益は309億6千3百万円(前年同期比10.8%増)、経常利益は314億3千1百万円(前年同期比9.9%増)となりました。

主力のITインフラ流通事業で好調な企業業績を背景としたIT投資需要を獲得したことにより、売上高・営業利益・経常利益がいずれも前年を上回り着実な成長を遂げることができましたが、大和紡績の株式譲渡により、現金支出を伴わない一過性の減損損失などの特別損失を計上したため、親会社株主に帰属する当期純利益は42億8千3百万円(前年同期比77.5%減)となりました。

なお株主様への還元については、期末配当を1株当たり32円とさせていただき、年間で64円と前期から2円の増配となっております。

中期経営計画(2022年3月期～2024年3月期)の総括

当期は、「将来にわたる発展を見据えた転換期」と位

置づけた中期経営計画の最終年度に当たるため、3か年の総括についてご報告させていただきます。グループ基本方針に掲げた「次世代成長ドライバーの創出」のトピックスでは、ITインフラ流通事業において、アルファテック・ソリューションズ株式会社がグループへ参入したことが挙げられます。今後も同社がこれまで蓄積してきた独自の技術ノウハウなどを駆使して、より高付加価値なディストリビューション事業への展開を強化していくこととなります。また、当事業では、ハードウェアを中心とした従来型ビジネスに加え、クラウドディストリビューターとしてのプレゼンスの確立を目指し、様々な施策を実施したことにより、「iKAZUCHI(雷)」の実績については3か年で約2.5倍に成長しました。なお、当期における国内PC市場シェアは、全体で28.0%、法人向けでは37.6%を占め、業界のリーディングカンパニーにふさわしい高水準で推移しております。

今後の見通しと取り組み

当社グループは2024年5月に新たな中期経営計画とともに、中長期ビジョン『2030 VISION』を公表しました。当社が描くエクイティストーリーは、IT分野を軸に新たな事業領域へ経営資源を投入し、バリューチェーンのさらなる発展につながるグループ体制を構築するというものです。

新中期経営計画については、『2030 VISION』における重要な挑戦期間であることを踏まえ、「事業ポートフォリオ変革による躍進期」と位置づけ、「ホールディングス体制での成長」「過去最高」へのチャレンジ」「ス

テークホルダーエンゲージメントの向上」の3点をグループ基本方針としました。

初年度となる今期の取り組みとして、ITインフラ流通事業は、Windows10サポート期間終了に向けた更新需要やGIGAスクール構想第2期に向けた端末更新の需要獲得に加え、各企業のDX関連投資に向けた提案力強化、顧客の生産性向上に貢献するオリジナルサービスの開発・提案に注力します。産業機械事業は、工作機械部門として即納体制確立による潜在需要の取り込みやエネルギー業界への省人化・無人化の提案営業に注力します。自動機械部門は技術力強化、中国市場における生産拡大とアフターサービス体制の強化を図ります。

当社グループは、社会的な存在意義や価値提供についての長期ビジョンを示した「パーパス」を昨年に制定しました。「バリューチェーンで人をつなぐ、社会をつなぐ、未来へつなぐ」というパーパスに込めた私たちの想いは、「つなぐ」ことで新たな価値を生み出し、すべてのステークホルダーの方々にとって「なくてはならない企業グループ」であり続けていくことにほかなりません。現代社会におけるインフラを支えるだけでなく、未来に向けて、より社会を快適に変えていくために幅広く貢献してまいります。

株主様におかれましては、引き続きご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

エクイティストーリー

IT分野を軸に
新たな事業領域へ経営資源を投入し
バリューチェーンのさらなる発展に
つながるグループ体制を構築する

「なくてはならない企業グループ」へ

社会に求められる事業モデルを創造する

All-in-One Solution Company

ディストリビューションを不動のコアに
IT市場全体を“つなぐ”

FY2030

連結営業利益 500億円 を目指す

— HD体制発足時の10倍 / CAGR 12%

FY2009
50億円

FY2030
500億円

事業ポートフォリオ変革を追求する経営により
2030年までの成長スピードを段階的に加速させていく

新規領域の
確立

従来の
成長軌道

繊維事業の
独立

新中期経営計画

『2030 VISION』における重要な挑戦期間

第1フェーズ
(FY2021-FY2023)

将来にわたる発展を
見据えた転換期

第2フェーズ
(FY2024-FY2026)

事業ポートフォリオ
変革による躍進期

第3フェーズ
(FY2027-FY2029)

2030年以降の成長へと
“つなげる”発展期

中長期ビジョン
『2030 VISION』

『2030 VISION』
実現による
成長イメージ

新中期経営計画
グループ基本方針

01

ホールディングス
体制での成長

- 持株会社として新たな事業領域への参入を探索
- 事業会社はセグメント内での強化・再編に着手

02

“過去最高”への
チャレンジ

- 売上高、利益における過去最高業績の更新
- 会社、組織、事業、個人それぞれのフィールドでベストパフォーマンスを目指す

03

ステークホルダー
エンゲージメントの向上

- 株主、取引先、従業員、地域社会などとの信頼関係向上と相互理解による協働
- 人的資本、システム、ガバナンス面など必要とされる経営基盤のさらなる強化
- ウェルビーイング経営の推進

新中期経営計画
目標値

(億円)	2025/3 (計画)	2026/3 (計画)	2027/3 (計画)	
売上高	9,750	10,500	10,000	■ 特需と反動減を想定 ■ ベース収益の成長も重視し施策展開
営業利益	311	350	330	■ 将来の新規事業・M&A効果は含まず
営業利益率	3.2%	3.3%	3.3%	■ コスト効率化と経営基盤強化・成長投資にメリハリをつけて実行

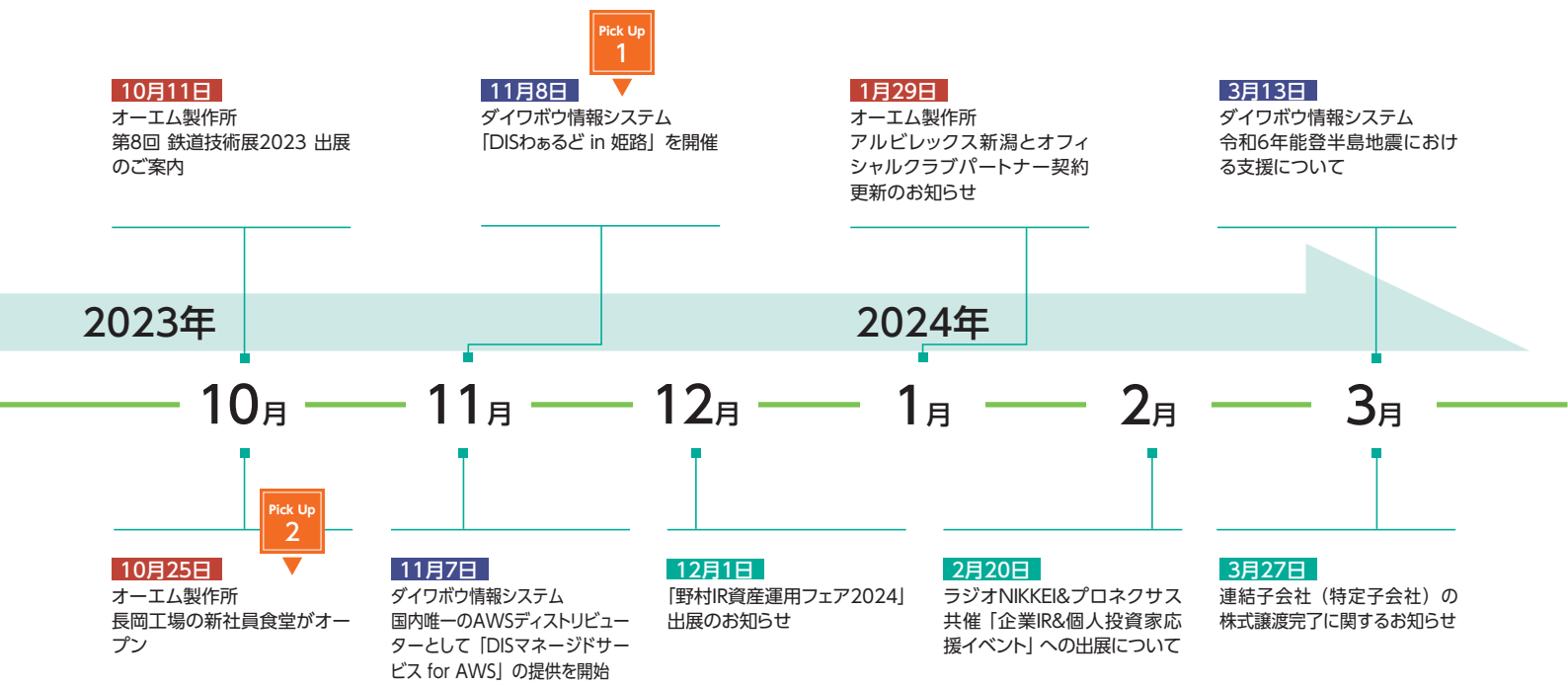
ROE<自己資本当期純利益率>

14%以上

ROIC<投下資本利益率>

12%以上

■ ROE、ROIC共に2025/3～2027/3を通じて設定値以上を維持することを目標とします。



Pick Up 1 「DISわあるど in 姫路」を開催

ダイワボウ情報システムは、2023年11月8日と9日の2日間、ICTの総合イベント「DISわあるど in 姫路」を開催しました。「デジタル変革に会い、響きあい、広がる地方創生へ。」というテーマのもと、国内外約190社の協賛企業とともに、最新情報の紹介やパネルディスカッション、セミナーを実施しました。この2日間で、合計4,702人のお客様にご来場いただき、大変盛況なイベントとなりました。今後も、地域密着営業によるコミュニケーションを通じて、最新のICT情報の提案を推進し、需要の深耕を目指してまいります。



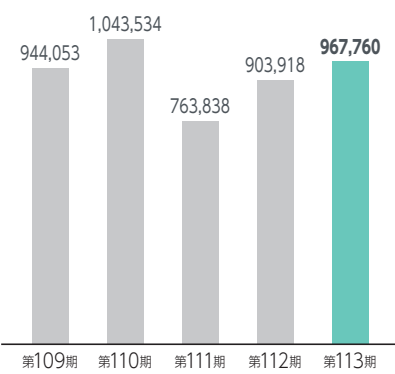
Pick Up 2 オーエム製作所 新食堂・設計棟完成

オーエム製作所は、2023年8月に新潟県の長岡工場に新食堂・設計棟を完成させました。1階は従業員食堂として、屋外テラス席、談話スペースも設け、新メニューと共にサラダバーの無料提供を開始しました。2階は設計事務所で、事務所棟と渡り廊下で連結し、冬季の降雪時でも往来しやすくなっています。2023年10月には、従業員とご家族を招待し、食堂で感謝祭を開催。工場見学、昼食会、ゲームの他に、当社がオフィシャルクラブパートナーのJリーグ、アルビレックス新潟の太田選手、小見選手に会場いただき、記念撮影も行い盛況な会となりました。今後も従業員が働きやすい環境づくりに取り組みます。



売上高 (百万円)

9,677億60百万円
前期比 7.1%増 ↗



(注)第111期から、収益認識会計基準等を適用した数値を記載しております。

- ROE (自己資本利益率) (%)
- ROA (総資産利益率) (%)

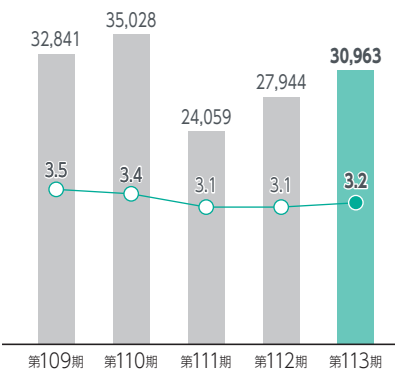
ROE 3.0%



(注)第113期に大和紡績の株式譲渡に伴う特別損失を計上した影響でROEが一時的に低下しております。

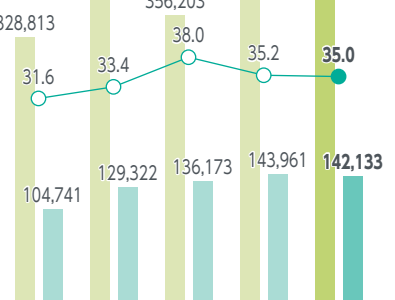
営業利益 (百万円) ● 営業利益率 (%)

営業利益 309億63百万円
前期比 10.8%増 ↗



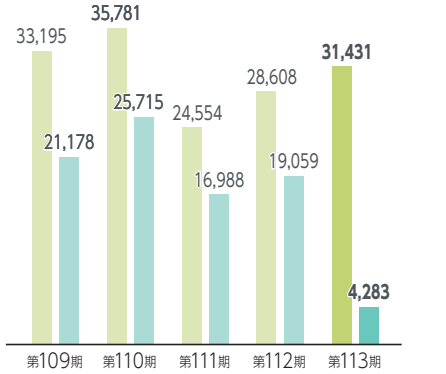
- 総資産 純資産 (百万円)
- 自己資本比率 (%)

自己資本比率 35.0%



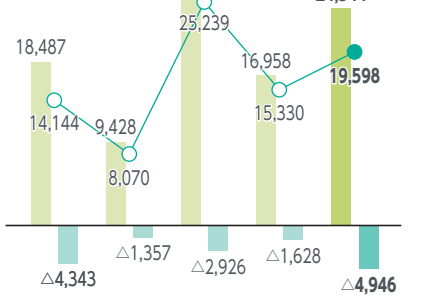
- 経常利益 (百万円)
- 親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円)

親会社株主に帰属する当期純利益 42億83百万円
前期比 77.5%減 ↘



- 営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)
- 投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)
- フリー・キャッシュ・フロー (百万円)

フリー・キャッシュ・フロー 195億98百万円

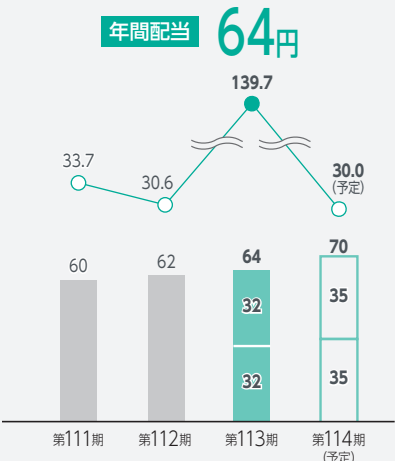


株主還元

第113期の配当金は、1株当たり中間配当金32円、期末配当金32円の年間配当金64円となりました。第114期の配当金は、中間35円、期末35円の年間70円とさらなる増配を予定しております。また約100億円の自己株式取得を実施中であり、配当性向と総還元性向のいずれも意識しながら株主還元の充実を図ってまいります。

※1株当たり配当金は株式分割(2021年4月1日)を過年度に遡及して表示。

配当金 (円) ● 配当性向 (%)



自己株式の取得状況

自己株式取得	第114期 (予定)
総還元性向	約100億円 (2024年5月10日～2025年1月31日)
PER (株価収益率)	75.9%
PBR (株価純資産倍率)	11.0倍
	1.69倍

※PER,PBRIは2024年3月29日終値に基づいて算出。
※PBRは実績

大和紡績(株)の株式譲渡により、繊維事業の独立化を実現

大和紡績株式譲渡の概要

大和紡績の事業概要

■ 繊維製品の製造・加工・販売
■ 事業会社の株式保有による事業活動の支配管理

連結財務概要*
(2023年3月)

■ 売上高：627億円 ■ 営業利益：13億円
■ 総資産：631億円 ■ 純資産：325億円

譲渡先

■ 株式会社アスパラントグループ SPC11号
(アスパラントグループ株式会社が発行済株式の全てを所有するSPC。)

譲渡価格

■ 91.8億円(株式価値108.0億円の85%相当額)
■ 譲渡価格は企業価値248億円をベースに運転資本、有利子負債、その他の資産・負債等に加え、アスパラントグループが大和紡績の持続的成長を実現するために拠出する予定である設備投資額を考慮した金額

譲渡完了日

■ 2024年3月27日

*外部会計監査を終了した連結財務諸表を作成していないため、大和紡績にて管理している連結ベースでの財務数値を参考値として記載

※なお、繊維事業は当連結会計年度末をもって連結の範囲から除外されることになります。

譲渡後の資本構成

譲渡前

ダイワボウHD
議決権 100%
大和紡績

譲渡後

ダイワボウHD アスパラントグループの関連ファンドが所有するSPC
議決権 15% 議決権 85%
大和紡績 大和紡績

大和紡績の既存取引先や従業員といったステークホルダーとの一定の関係性を維持しつつ、スムーズな移行を目的とした協力関係維持期間として、**当面の間は大和紡績の議決権15%の所有を継続予定**

ITインフラ流通事業	ディストリビューション	ダイワボウ情報システム(株)	
	サービス&ソリューション	ディーアイエスサービス&ソリューション(株)	
	ITインフラソリューション	アルファテック・ソリューションズ(株)	
繊維事業	合繊・レーヨン	大和紡績(株)	ダイワボウレーヨン(株)
	産業資材		カンボウプラス(株)
	衣料製品		ダイワボウアドバンス(株)
産業機械事業	工作機械	(株)オーエム製作所	
	自動機械	(株)オーエム機械	
	鋳造・加工・組立	オーエム金属工業(株)	

(2024年3月期)

繊維事業 6.1% 産業機械事業 1.4%

連結売上高 9,677億円 第113期

ITインフラ流通事業 92.4%

ITインフラ流通事業

売上高

828,997 894,693

第112期 第113期

営業利益 (百万円)

25,394 28,244

第112期 第113期

繊維事業

売上高

61,980 59,210

第112期 第113期

営業利益 (百万円)

1,499 1,580

第112期 第113期

産業機械事業

売上高

12,170 13,213

第112期 第113期

営業利益 (百万円)

886 1,032

第112期 第113期

全国各地の営業拠点において対面訪問の機会が増加し、円滑なコミュニケーションにより好調な企業業績を背景としたIT投資に関連する多くの商談が発生しました。PCは第4四半期に需要の高まりをみせたことで販売台数が増加し、単価上昇も相まって売上高は前年同期を上回る結果となりました。クラウドサービスなどの拡充や提案活動を強化し、重点施策であるサブスクリプションビジネスについても売上高が順調に拡大しました。

不織布製品は堅調な需要に支えられて販売数量を伸ばしましたが、衛材用原綿の在庫調整や米国住宅市況に関連した需要の低迷、原燃料価格の高止まりなどもあり、利益面で苦戦しました。

工作機械部門では、風力発電や高効率タービンで需要のあるエネルギー業界や、航空機業界向け小型エンジンの需要回復がみられ、自動機械部門では、食品業界向けの重点営業により売上が拡大しました。

5

ITインフラ流通事業

国内最大級のディストリビューターとしてIT環境をトータルにサポート

ITインフラ流通事業は、ダイワボウ情報システム(DIS)グループが運営する事業です。DISは独立系マルチベンダーとして、お客様のニーズに合わせて最適なソリューションを提案し、世界中のIT関連商品・サービスを最適な組み合わせでご提供しています。どの地域のお客様にもFace to Faceできめ細やかに対応できるよう、

日本国内をカバーする営業拠点と物流拠点を展開。全国の販売パートナーを通じて、民間企業や官公庁・自治体、学校、医療機関、一般消費者など、幅広く利用されるIT関連商品をお届けします。時代の変化に即応しながら、万全のサービス&サポートで、多様化・高度化するニーズに応え続けていきます。

メーカー (仕入先)

約1,400社
約260万アイテム

DIS

PC SIMフリー端末・スマートフォン ペリフェラル ネットワーク
通信・クラウド ソフトウェア その他

販売パートナー

約19,000社

エンドユーザー

企業 官公庁・自治体 文教・研究施設
医療機関 一般消費者(個人)

(2024年3月31日現在)

事業を通じた社会課題解決への貢献機会

■ 全国の営業拠点網によるIT化推進の取り組み

■ 教育の情報化に向けた取り組み

■ サブスクリプション管理ポータル「iKAZUCHI(雷)」での新たなビジネス共創の場の提供

4 読者の高い関心をめくために

7 さまざまなニーズに応えるために

8 働きがいも成長機会も

9 産業と技術革新の基盤をつくろう

17 パートナリングで価値を創出しよう

iKAZUCHI(雷)掲載サービス

130ベンダー/243サービス

(2024年3月現在)

「iKAZUCHI(雷)」は、DISが提供するサブスクリプション管理ポータルです。サブスクリプション型(継続課金型)ビジネスは、導入コストを抑えて、最新のサービスを必要な分だけ利用するため、幅広い分野で普及・拡大が見込まれています。販売パートナーは「iKAZUCHI(雷)」を利用することで、クラウドサービスを中心としたサブスクリプションビジネスにおける注文工数が削減され、年額・月額・従量制などのさまざまな継続型契約や、ユーザー情報の一元管理が可能になります。

6

産業機械事業

あらゆる業界の製造機械に変革をもたらす「匠の精鋭技術集団」

航空・宇宙分野をはじめ、あらゆる産業のマザーマシンとして活躍し、長年にわたる技術・技能の伝承により厚い信頼を得ている「立旋盤」や、鉄道の安全と乗り心地を支える「車輪旋盤」などの工作機械と、食品や製薬などの幅広い業界で活躍する自動包装機を主に製造販売しています。時代を先取りし、独創性を持って、高い技術力が生み出す高精度な機械を提供することで、多様化するユーザーニーズに確実に応えていきます。

事業を通じた社会課題解決への貢献機会

■ 航空機エンジンやエネルギー分野向け、鉄道車輪メンテナンス用の工作機械などを通じてモノづくりの技術と品質を提供

7 さまざまなニーズに応えるために

9 産業と技術革新の基盤をつくろう

12 つくる責任 つかう責任

会社概要

(2024年3月31日現在)

社 名 ダイワボウホールディングス株式会社
資 本 金 216億9,674万4,900円
創 立 日 1941年(昭和16年)4月1日
HD設立日 2009年(平成21年)7月1日
本 社 大阪市北区中之島3丁目2番4号
中之島フェスティバルタワー・ウエスト
連結従業員数 2,867名

役員

(2024年6月27日現在)

取締役



代表取締役社長
西村 幸浩



常務取締役
猪狩 司



常務取締役
山下 隆生



社外
取締役
中村 一幸



社外
取締役
吉丸 由紀子



社外
取締役
藤木 貴子



社外
取締役
堀 哲朗



社外
取締役
岸波 みさわ

監査役



常勤監査役
小野 正也



社外
監査役
植田 益司



社外
監査役
角石 紗恵子

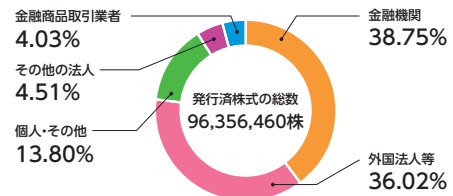
株式の状況

(2024年3月31日現在)

発行可能株式総数	発行済株式の総数	株主数
200,000,000株	96,356,460株	10,871名

(注) 発行済株式の総数のうち2,776,647株を自己株式として保有しております。

所有者別株式分布状況

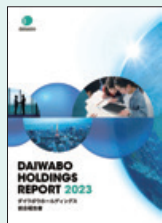


株主メモ

事業年度 毎年4月1日～翌年3月31日
基準日 毎年3月31日
定時株主総会 毎年6月
株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
〒541-8502
大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
☎ 0120-094-777 (通話料無料)
上場証券取引所 東京証券取引所プライム市場
公告の方法 電子公告により行う
公告掲載URL <https://www.daiwabo-holdings.com/>
(ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

ご注意

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっておりますので、口座を開設されている証券会社等にお問合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行本店でもお取次ぎいたします。



統合報告書2023



グループ広報誌
DAIWABO HOLDINGS Digest



Corporate Profile 2023



各詳細につきましては、当社ウェブサイトをご覧ください。

<https://www.daiwabo-holdings.com/>

IR・投資家情報

個人株主・投資家の皆様へ/中期経営計画/業績/財務/IRライブラリ/株式情報
IRカレンダー/よくあるご質問/電子公告

サステナビリティ

トップメッセージ/マテリアリティ(重要課題)/「社会・産業」の創造と革新を支える「環境」との共生を支える/「人」を大事にする/ガバナンス/ISO取得状況
ESGデータ/CSR調達ガイドライン/統合報告書

事業紹介

ITインフラ流通事業/産業機械事業

会社情報

ご挨拶/グループ理念体系/会社概要/役員一覧/沿革/統合報告書
グループ広報誌/広報・企業広告ライブラリ

株主の皆さまの 声をお聞かせください

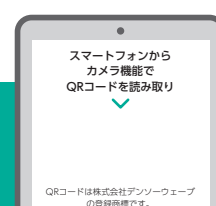


当社では、株主の皆さまの声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。
お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、アクセスキー入力後に表示される
アンケートサイトにてご回答ください。

<https://koekiku.jp>

アクセスキー



QRコードは株式会社デンソーウェーブ
の登録商標です。

ご回答いただいた方の中から
抽選で薄謝を進呈させていただきます。

本アンケートは、株式会社プロネクサスの提供する「コエキク」サービスにより実施いたします。<https://www.pronexus.co.jp/>
アンケートのお問い合わせ「コエキク事務局」✉ koekiku@pronexus.co.jp